甲斐市立玉幡小学校　学校関係者評価書

令和６年２月１６日（金）

甲斐市立玉幡小学校　学校関係者評価委員会作成

学校関係者評価委員会

実施日：令和６年２月９日（金）午後２時５０分から３時５０分

会　場：甲斐市立玉幡小学校　家庭科室

参加者：学校評議員　：三井　敏夫　・志村　俊光　・村松　まゆみ　・星　愛

ＰＴＡ代表　：勝村　和重　・岡　浩之　・斉藤　仁

学校側　：校長　花形　一満　・教頭　久保田　勲

教務主任　松橋　勝

Ⅰ　学校側から提案された内容

〈教職員自己評価書について〉

１　達成状況について

２　改善策について

３　まとめ

Ⅱ　協議された主な内容

１　全体の概要について

（１）教職員自己評価について

○　学校教育目標や学校経営について，全員の教職員が肯定的な意見であり，校長の経営方針に基づく学校教育活動がなされ，一定の成果をえることができていること。

（２）小学生アンケートについて

○　「学校は楽しいですか」の肯定意見が８９．１％となり，多くの児童が学校生活に満足している状況であること。

（３）保護者アンケートについて

○　「お子さんにとって学校は楽しいところだと思う」の肯定意見が９１％以上であり，好意的な評価であること。

２　学校教育目標・学校経営について

○　教職員の意識のベクトルを同じ方向に合わせ，組織的，協働的に職務に当たるようにしていく。

○　常にＰＤＣＡを意識した教育活動を実施する。教育活動ごとに成果と課題を洗い出し，改善策を確認し，次の活動に生かしていくこと。

○　一人一人の児童のニーズに応じた合理的な配慮が学校体制で取り組めるように，教職員間の情報共有を確実に行っていくこと。

3　学校運営について

○　「危機管理マニュアル」を的確に活用できるように，教職員への周知や訓練を行い，学校事故を最小限に食い止めることができるようにしていくこと。

○　働き方改革を意識した教育計画立案に努め，教職員がゆとりをもって児童の指導にあたることができるようにしていくこと。

4　学習指導について

○　学年主任を中心に，「やまなしスタンダード」で求められる「めあて」と「まとめ」の段階を意識して，授業づくりを行っていくこと。

○　ＩＣＴを効果的に活用した授業づくりに取り組んでいくこと。

○　宿題や自主学習の取組を通して，学校と家庭が両輪となって，児童の学力向上を推進していくこと。

○　情報モラル教育の推進と，保護者への啓発を継続していくこと。

5　生徒指導について

○　規範意識の涵養を目指し，頑張っている児童の姿を認め，褒めながら，学校全体の自尊感情を育んでいくこと。

○　児童の問題行動については，早期発見に努め，組織的な対応ができるよう，ＳＣやＳＳＷ，甲斐市子育て支援課，児童相談所と連携しながら，全教職員の共通理解のもと，問題解決にあたっていくこと。

6　地域との連携について

○　「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて，今後も，竜王中部公園セミナーハウス，その他地域関係団体と連携し，児童の学びを深めていくこと。

○　学校だよりや学校ホームページを通して，学校情報の発信に努めるとともに，ＰＴＡ・学校運営協議会・関係者評価委員会での話し合いやアンケートにより保護者や地域の意見・要望を積極的に取り入れていくこと。

7　学校の特色に関して

○　児童会を中心とした子どもたち自身の自発的な取組と共に，旗振りの保護者，地域の見守りをしていただける方々への積極的な挨拶など，学校外でも挨拶ができるように，教職員の声かけや保護者・地域への呼びかけ等を行っていくこと。

8　創甲斐教育について

○　創甲斐教育の意義を全教職員で共有し，組織的・計画的に教育課程に位置づけ取り組んでいくこと。

〈学校関係者評価書〉

1　全体評価

○久しぶりにコロナ以前の学校行事や教育活動を行うことができてきた。コロナ禍で得た知見を生かし，保護者や地域と連携しながら，教職員が一丸となって教育活動に取り組んできたことがうかがえた。

2　観点ごとの評価結果

Ⅰ　学校教育目標・学校経営について

○学校を楽しいと思えない児童にも，しっかりと目を向け，少しでも学校が楽しいところであると思える教育活動を推進していくこと。

○ＰＤＣＡサイクルの教育活動を継続し，改善点を次に生かす引継を行うこと。

Ⅱ　学校運営について

○働き方改革をより進め，教職員がゆとりをもって児童の指導にあたることができるようにしていく。

○管理職やミドルリーダーの働き方改革も進め，教育課題に素早く対応できるようにすること。

○若手人材育成に関わって，経験豊かなベテラン教職員と熱意ある若手教職員がペアっとなって職務にあたることができるようにすること。

Ⅲ　学習指導について

○児童の学習意欲喚起を図るために，ＩＣＴを効果的に生かしていくこと。

○よりよい情報を取捨選択する力も学校教育の中で育成していくこと。

○総合的な学習の時間において，地域性や児童の実態を生かした教育課程を編成すること。

Ⅳ　生徒指導について

○多様な家庭環境に対応していく生徒指導を行うこと。保護者負担軽減等も考慮した学校行事や学用品整備を行うこと。

Ⅴ　地域との連携について

○やはたいもづくりをはじめ，地域と連携した取組を継続すること。地域だけでなく，保護者にも積極的に協力を呼びかけていくこと。

Ⅵ　学校の特色について

○学校内だけでなく地域においてもあいさつが元気よくしっかりとできる児童を育成するために，保護者や地域の方に協力を呼びかけていくこと。

３　今後の課題として確認されたこと

○　ＰＤＣＡサイクルを大切にした教育活動の推進
○　危機管理マニュアルの見直しと確実な運用
○　やまなしスタンダードに基づく指導を行い，主体的に学習に取り組む児童の育成
○　ＩＣＴ一人一台タブレットの積極的な活用
○　働き方改革を進め，児童が安心して相談できる体制づくり
○　特別支援，生徒指導に関して関係機関との連携
○　学校と地域の願いを紡いだ社会に開かれた教育課程の実現

※特記事項

○　特になし

以上

記載責任者：甲斐市立玉幡小学校　学校関係者評価委員　勝村　和重　印